



# ベトナム2022 IT動向最新情報

 CMC JAPAN  
Aspire to Inspire the Digital World



# 目次

ベトナム経済について	01-02
ベトナムのIT産業	03
人口統計/開発者について	04-06
人気のあるテクノロジー	07
レベルとスキル・開発者給与	08
ベトナムのITインフラ	09-13
日本とベトナムの友好関係	14
ベトナムから見た日本の印象	15
お問い合わせ	16

# ベトナム経済について

## 人口

**9758** 万人(2020)  
2大都市: ホーチミン(860万人)  
ハノイ(467万人)

## GDP

**2619億** ドル(2019)  
成長率 7.02%(2019) / 2.91%(2020)  
世界の経済大国40位、ASEAN4位

## 1人あたりのGDPS

**2,779** ドル(2020)  
2,715ドル(2019)に比べて64ドル増/1,331ドル(2019)に比べて2倍

2020年は、ベトナムを含む世界経済全般にとって困難と挑戦の年であると考えられています。世界経済は歴史上最も深刻な不況に見舞われると予測されており、新型コロナウイルスのパンデミックの影響により、主要国の経済成長は深く低下しています。しかし、ベトナムは2.91%のGDP成長率を記録し、経済成長を維持しています。中国、ミャンマーとともに、ベトナムはアジアで2020年にプラス成長を遂げる3か国のうちの1つです。

## 15年以上の労働者

**546** 万人(2020)  
2019年に比べて120万人減少

## GDP

**4830** 万人(2020)  
2019年に比べて849,500人減少

## 不完全雇用率

**2.51** %(2020)  
都市:1.68% / 地方:2.93%

## GLOBAL INNOVATION INDEX(GII)

**42**<sup>↑3</sup> (2020)  
2019年比で3ランクアップ(WIPO2019)  
低中所得経済圏の中でイノベーション経済1位

## 15歳以上の就業人口と過労死者数

**534** 万人(2020)

## 労働者の失業率

**2.26** %  
都市:3.61% / 地方:1.59%

## 人間開発指数

**0.704**  
189の国・地域の中で117位となり、  
初めて「人間開発力」の高い国の仲間入りを果たしました。

2020年第4四半期の労働・雇用情勢は、前四半期に比べ多くの繁栄の兆しを見せたが、新型コロナウイルスの影響により、通年の失業率および不完全雇用率は2019年より高くなった。2020年、全国の人々の生活は自然災害とCovid-19によって多くの困難に直面したが、中央から地方までの各レベル、セクターの注意と国民の力により、人々の生活は概ね安定した。

# ベトナム経済について

## 新規登録事業者

**134,940** (2020)

2019年に**2.3%**減少  
月平均14,900社が新規企業設立もしくは事業再開

新型コロナウイルスのパンデミックの影響に直面したものの、政府と経済界の努力により、2020年の企業登録状況は顕著な成果を収めました。  
2020年、全国で134,940社が新たに設立されており、前年と比較して2.3%減少しましたが、企業の平均登録資本金は166億ドンに達し、32.3%増加しました。

## 休業・廃業企業

**101,700** (2020)

2019年に比べて**3.9%**増加  
月平均85,000社が撤退

2020年、一定期間停止、一時停止・解散手続き待ち、解散手続き完了の企業は合わせて約10万社で、前年から13.9%増加しました。  
そのうち、一定期間停止した企業は約46,600社で、2019年に比べて62.2%増加、一時停止して解散手続きを待つ企業は約37,700社で13.8%減少、解散手続きを終えた企業は約17,500社で3.7%の増加となりました。  
月平均では、撤退する企業が8,500社となりました。

## 新規登録事業者

**2,815億** ドル(2020)

2019年に**6.5%**増加

## 商品の輸入売上高

**2,624億** ドル(2020)

2019年に**3.6%**増加

2020年は、国内だけでなく世界経済が新型コロナウイルスの大流行と世界的な貿易の混乱によってマイナスの影響を受ける中、輸出入活動は前年よりも良い結果となりました。2020年の輸出入総額は、前年比5.1%増の5,439億ドルとなりました。そのうち、財貨の輸出高は2,815億ドルに達して6.5%の増加、財貨の輸入高は2,624億ドルで3.6%の増加となりました。

## 海外直接投資

**285億** ドル(2020)

2019年に**6.5%**増加

2020年、ベトナムに投資している国・地域は109に上りました。シンガポール企業の投資額は80億ドルで、前年の韓国を抜いて最大となりました。2位は韓国企業(投資資本金37億ドル)、3位は中国(投資資本金24億ドル)。さらに、日本、タイ、台湾の企業も複数進出しています。  
2025年には、ベトナムのデジタル経済は520億ドルに拡大すると推定されています。eコマース、デジタルバンキング、オンラインゲームといったデジタル経済のサブセクターは、消費者需要の新興・高成長分野となっています。ベトナムの消費者がFDIの原動力であることには変わりはありませんが、外国企業が消費者にアプローチするために必要なルートが変わる可能性があります。

## 商品の総輸入及び輸出売上高

**5,439億** ドル(2020)

2019年に**5.1%**増加

## 2020年の貿易収支

**199億** ドル(2020)

## 投資するのに最適な国ランキング

**8位**

US NEWS&WORLD REPORT調べ

# ベトナムのIT産業

## ICT総収入

1,200億ドル(2020)

## ハードウェア

1,070億ドル(2020)

## ソフトウェア

50億ドル(2020)

## ICT総収入

844.5億ドル(2020)

↑7.1% (2019→2020)

ICT輸出は、  
国内総輸出額の約30%  
世界のICT輸出額の3%

## インターネット経済成長率

17%(2020)

東南アジアで最も成長率が高い

2021年第1四半期の製造業の景気動向調査の結果は上記の通りです。

第1四半期の生産事業の状況が、2020年第4四半期よりも良かったと評価した企業は29.6%、  
困難に直面した企業が31.4%、事業が安定していると評価した企業は39%でした。

2021年第2四半期の予想結果については、51%の企業が「傾向が良くなる」と提示し、

14.9%の企業が「困難になる」、34.1%の企業が「事業の生産状況が安定する」と回答しました。

その中で、外商投資部門は最も楽観的で、86.2%の企業が2021年第1四半期の生産状況が改善し、  
安定的に推移すると予測しました。

## 2021年第1四半期GDP成長率

4.48%

2021年第1四半期の国内総生産(GDP)は、  
一部地方で新型コロナウイルスの影響を受けたものの、  
前年同期比4.48%増と、2020年第1四半期の成長率3.68%を  
上回る見通しです。

順位は57位から49位へ、ICTは108位から77位へ、  
電子政府は89位から86位へ、サイバーセキュリティは  
100位から50位へと見事に順位を上げました。  
この分野の企業数は28%増加しています。  
その他、5G技術の試験運用の成功や、最新世代の  
インターネットプロトコルを導入している  
上位10か国のリストに入るなど、重要な成果をあげています。

さらに重要なのは、現在ベトナムは、携帯電話および  
部品の製造において世界第2位、電子部品の製造において  
世界第10位に位置しているということです。この2つによって、  
ICTはベトナム経済で最大の輸出黒字産業となりました。

2030年までのベトナムのデジタル技術企業に関する  
国家戦略案には、以下の4種類のデジタル技術企業の  
育成に注力することが明記されています。

### GROUP1

コア技術開発企業

### GROUP2

デジタル技術を用いた  
製品・サービスを  
開発している企業

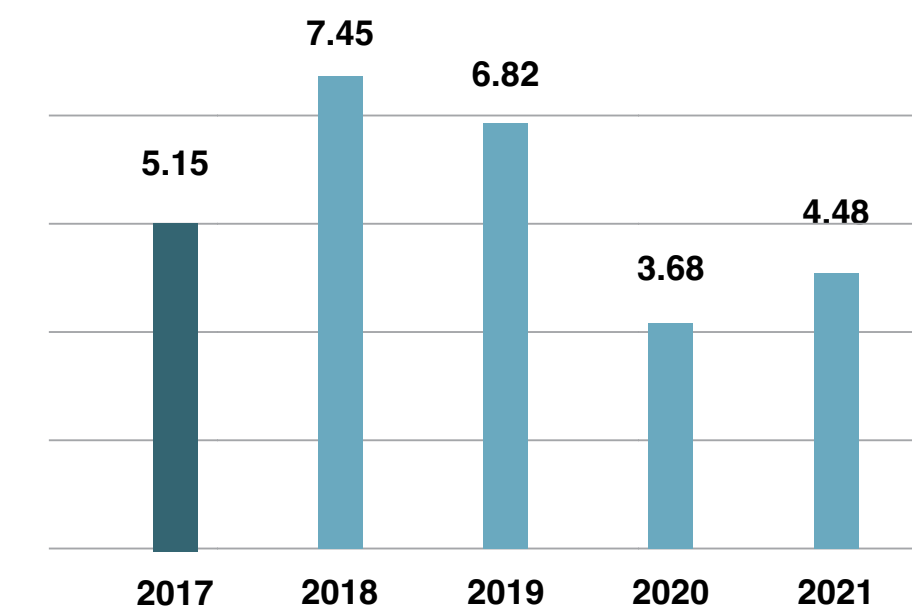
### GROUP3

デジタル技術を用いた  
ソリューション開発企業

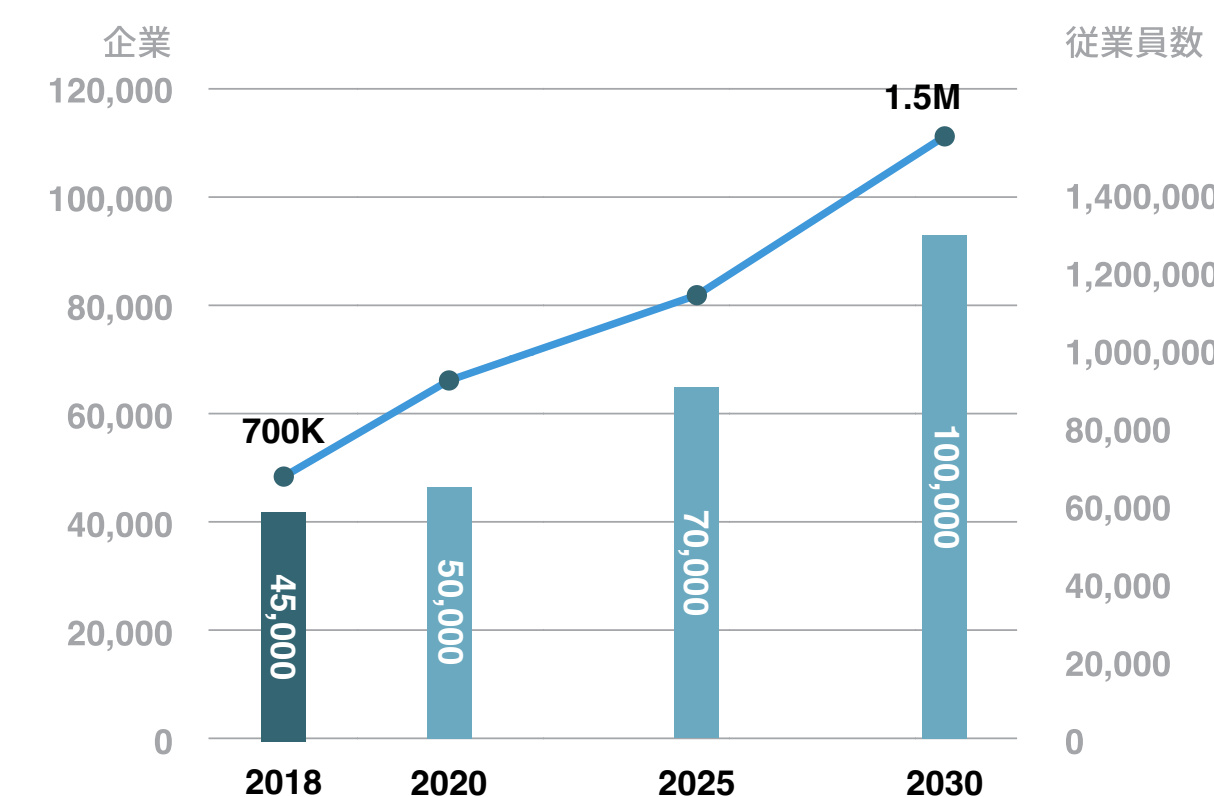
### GROUP4

デジタル技術系  
スタートアップ企業

2017～2021年の第1四半期GDP成長率(%)



2030年までにベトナム国内のデジタルテクノロジー企業を1000社に増加させる計画



TopDev "VIETNAM IT MARKET REPORT: Developers Recruitment State 2021"

2025年までにベトナムのデジタル技術関連企業は7万社、同分野で働く人は120万人になると予想されています。  
2030年には、10万社のデジタル技術関連企業と150万人のデジタルワーカーを擁することを目標としています。

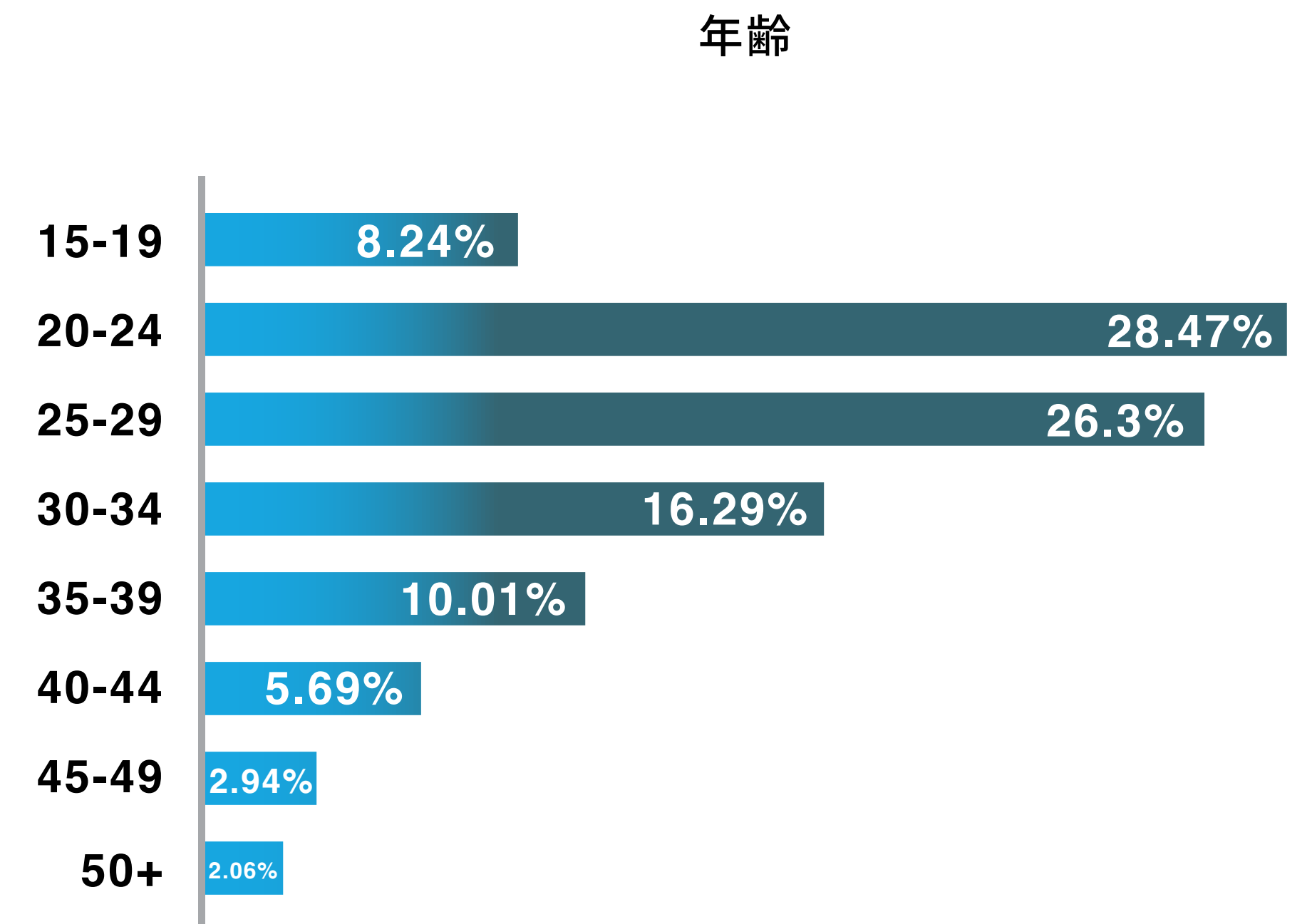
お問い合わせはこちら

# 人口統計 / 開発者について

TopDev社の「ベトナムIT市場レポート」を見てみると、現在、開発者の多くが**ミレニアル世代**に属していることがわかります。

この世代は、より良いバランス、健康的なライフスタイル、会社や製品に関するより多くの情報を望み、製品開発プロセスに強く関与することを望んでいます。また、製品に自分自身や地域社会に貢献する機能を期待する世代でもあります。

今回の調査では、20歳から34歳までが最も多くなっています。多くの開発者が早くからコーディングを始めており、**約8.24%が20歳未満**でコーディングを始めています。現在、ベトナムでは**20歳～29歳の開発者が54.76%**と、若い年齢層の開発者が大半を占めています。

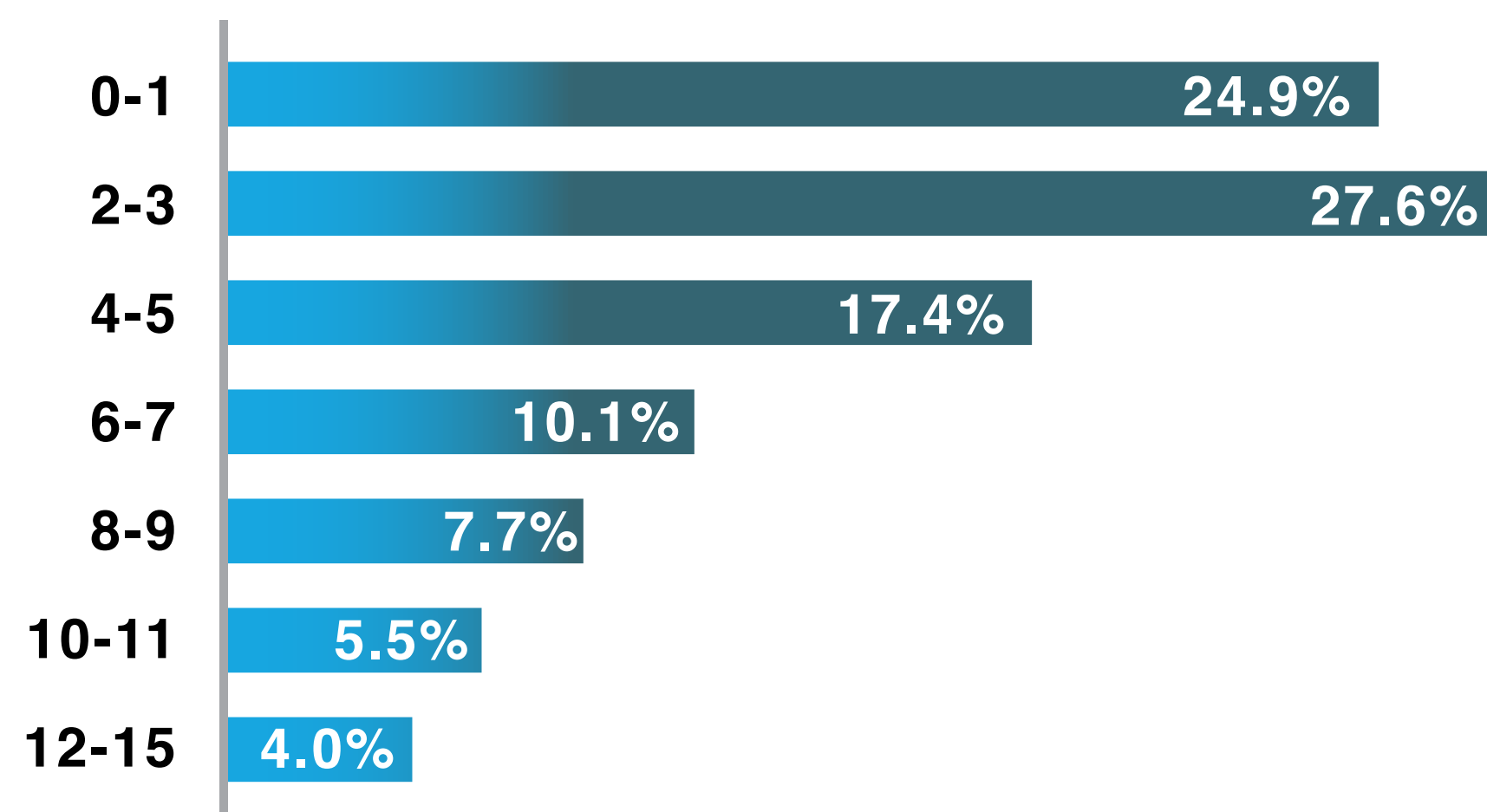


TopDev "VIETNAM IT MARKET REPORT: Developers Recruitment State 2021"

# 人口統計 / 開発者について

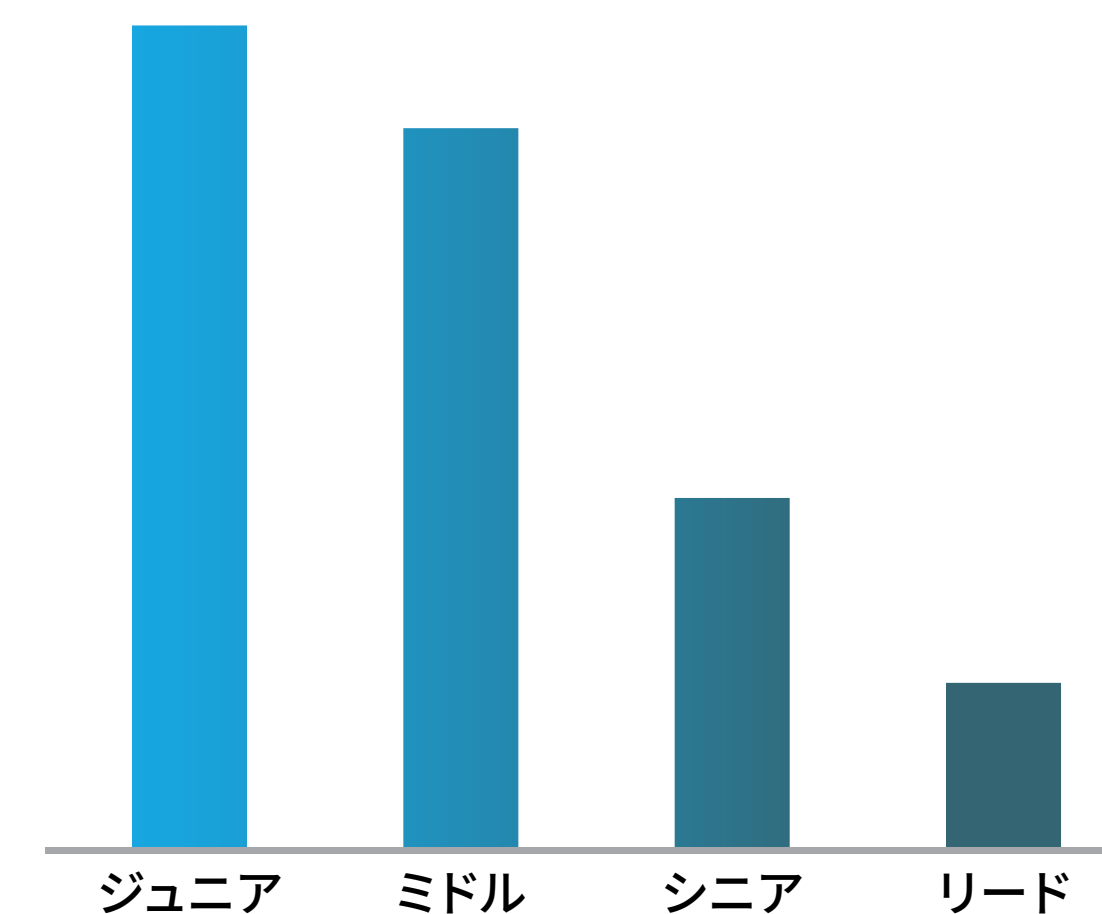
経験年数5年以上のシニア開発者が約**30%**、3年未満が**52.5%**

経験年数



TopDev "VIETNAM IT MARKET REPORT: Developers Recruitment State 2021"

スキルレベル

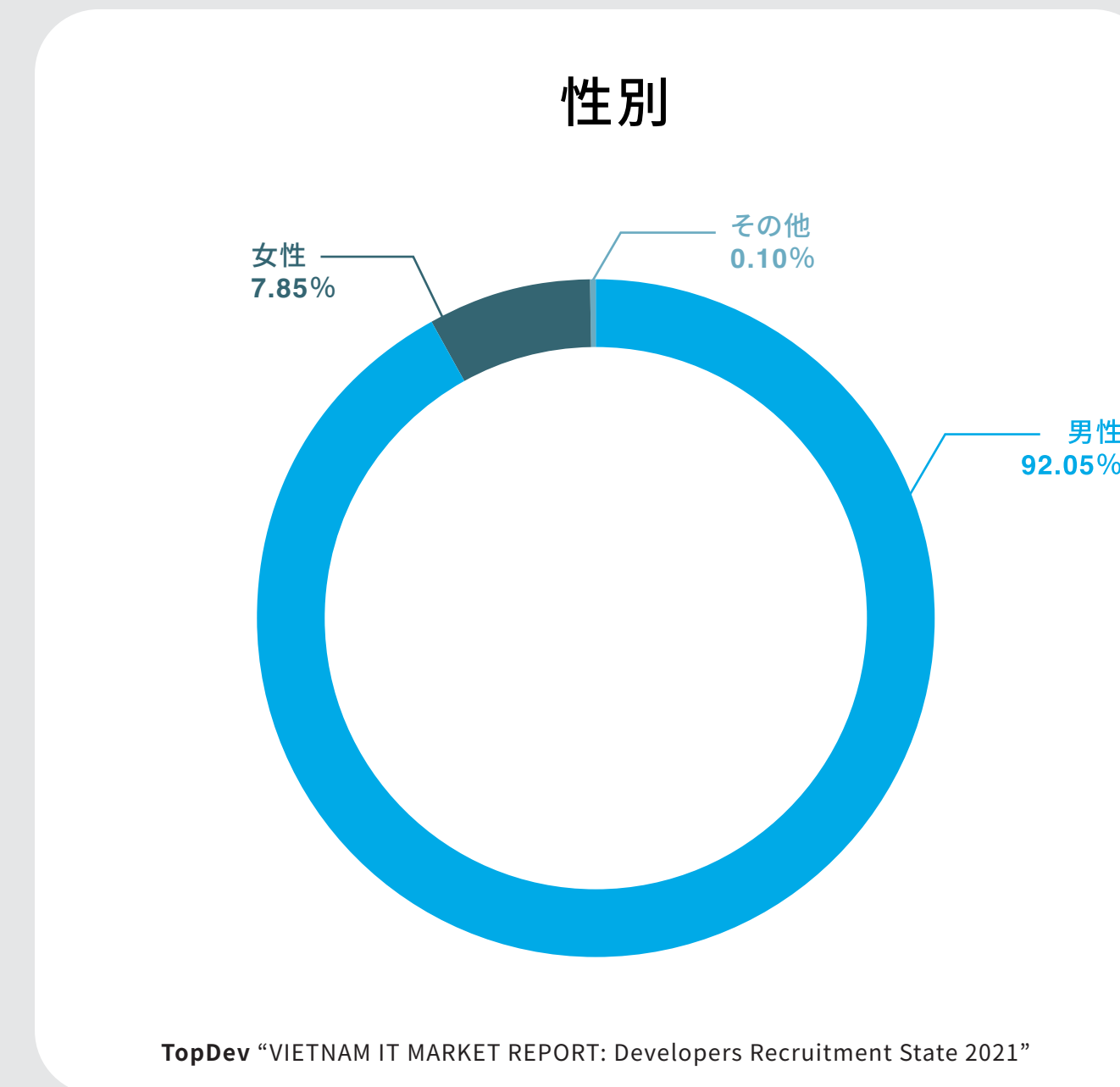
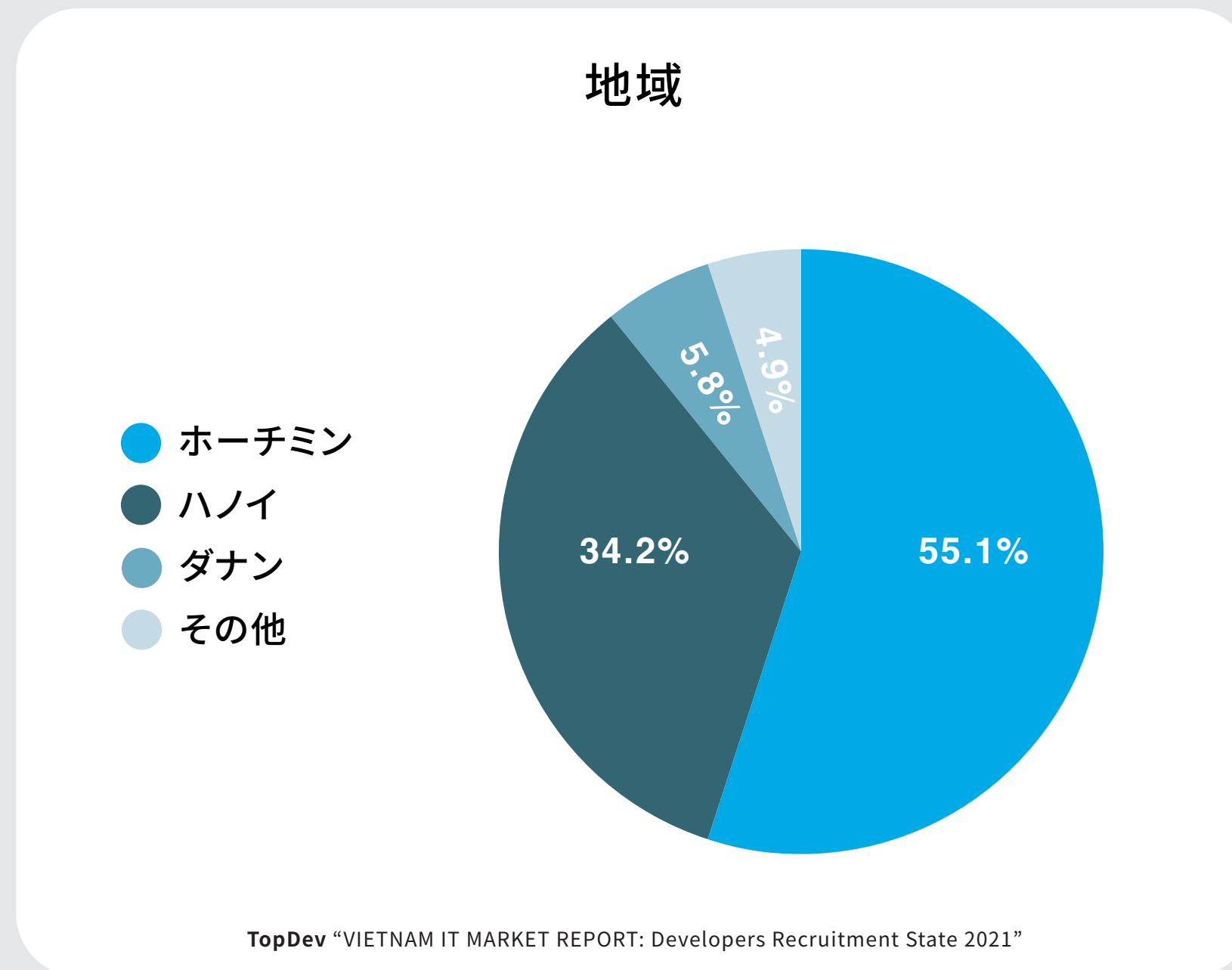


TopDev "VIETNAM IT MARKET REPORT: Developers Recruitment State 2021"

わずか数年の経験しかなくても、シニア/リード世代の専門知識を持つ開発者が多数存在します。  
その反対で、何年も経験を積んでいるにもかかわらず、若手やシニア世代の上位職としてしか評価されない人もいます。

# 人口統計 / 開発者について

開発者および技術部門で働く人の性別は、依然として男性が**92.05%**以上と圧倒的です。女性は**7.85%**と少数派ですが、特に経験年数**2**年以上の人の割合が大幅に増えています。



昨年と比較すると、IT業界で働く女性の数は、**大幅に**増えています。



# 人気のあるテクノロジー

React、MySQL、Spring、Laravel、Sass、Djangoはそれぞれの技術スタックの中で最も人気のある技術です。

## JavaScript

1. Eeact	34.11%
2. Node.js	30.19%
3. Vue	19.08%
4. Angular	18.26%
5. Express	10.82%

## SQL

1. MySQL:	53.11%
2. SQ: Server	20.66%
3. PostgreSQL	18.77%
4. MongoDB	13.87%
5. Redis	10.47%

## Java

1. Spring	55.96%
2. Struts	18.47%
3. Hibernate	18.03%
4. JSF	12.37%
5. Vaadin	5.77%

## CSS

1. Sass	75.33%
2. Less	64.37%
3. Stylus	50.20%
4. PostCSS	39.85%
5. SCSS	18.62%

## .NET/C#

1. .NET Framework	56.93%
2. .NET Core	39.60%
3. ASP.NET Core	25.15%
4. ASP.NET MVC	22.04%
5. Xamarin	8.35%

## Python

1. Django	35.22%
2. Falcon	20.96%
3. Pyramid	6.50%
4. Flask	4.40%
5. Bottle	2.10%

## PHP

1. Laravel	61.21%
2. Symfony	34.17%
3. CodeIgniter	28.38%
4. Yii	12.89%
5. CakePHP	5.89%

## Mobile Development

1. Java	45.06%
2. Swift	35.19%
3. Objective-C	34.21%
4. React Native	31.12%
5. Flutter	12.56%

JavaScriptは、他のITスキルと共に**最も人気のある言語**です。

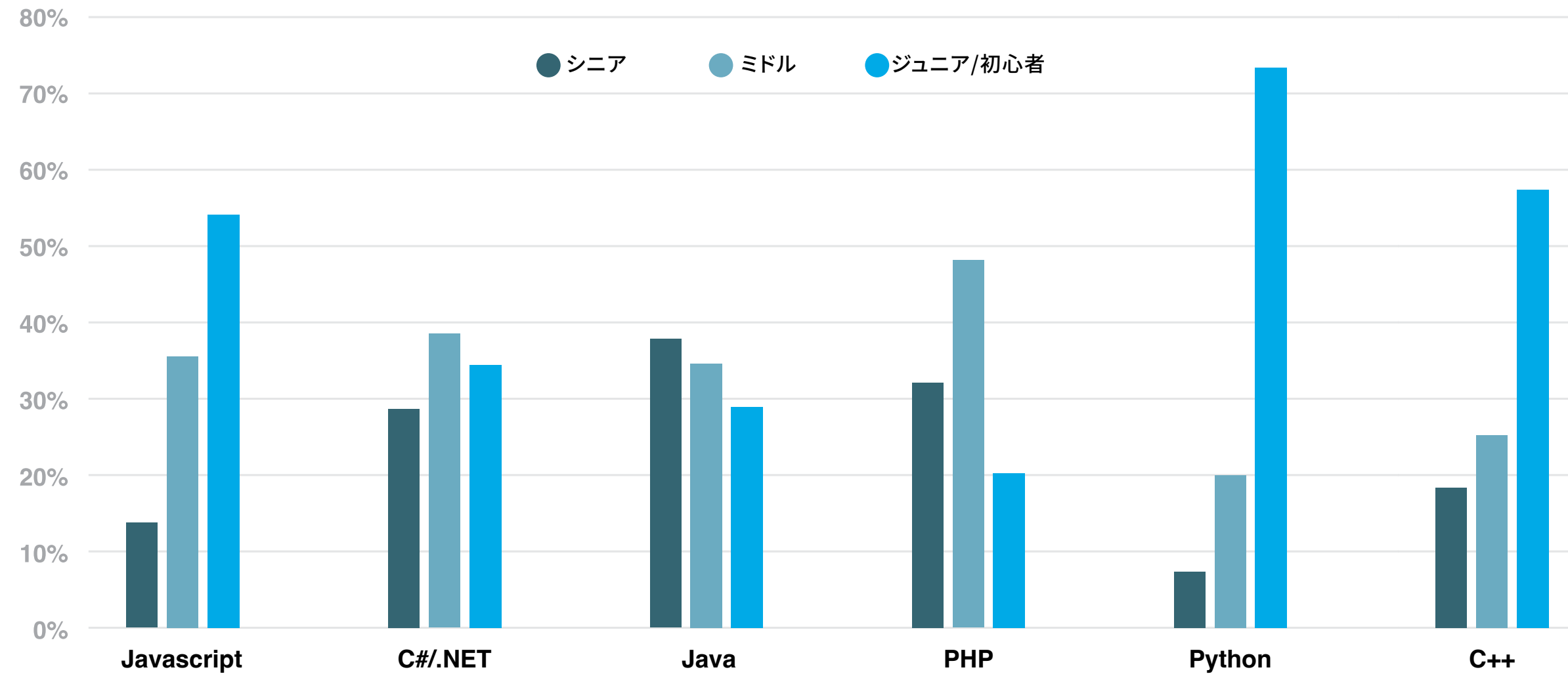
Pythonは、最近テクノロジー界で最もホットな「プレイヤー」の1つですが、選択肢の中で人気に大きなギャップが見られます。

モバイル開発者では、Java、Swift、Objective-Cがプログラミング言語の選択肢のトップ3にランクインしています。

一方、React NativeとFlutterは、ここ数年で飛躍的に人気が高まっています。

# レベルとスキル・開発者給与

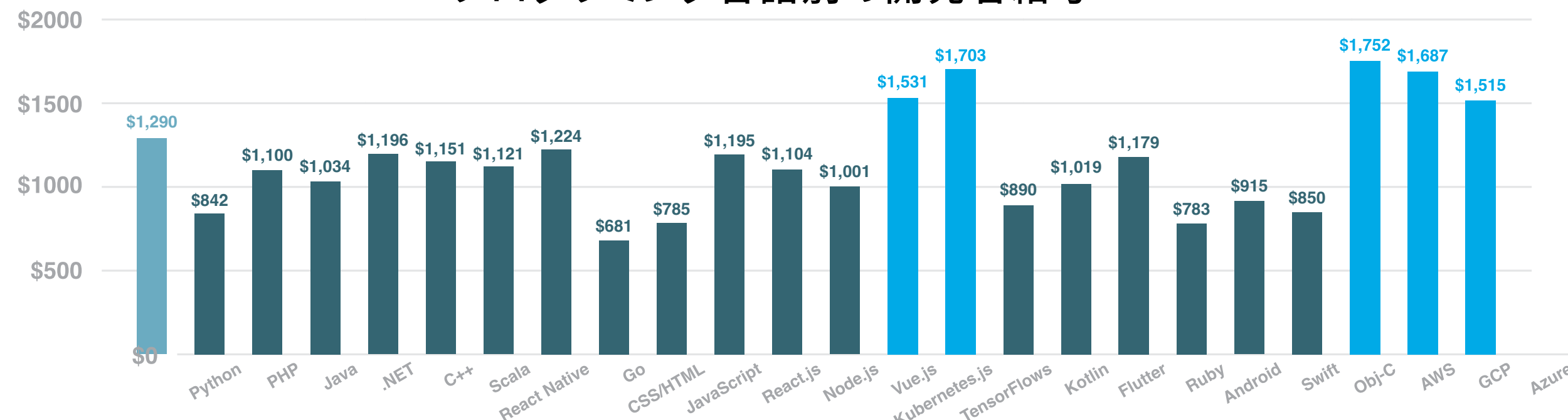
人気プログラミング言語におけるスキルレベルの割合



TopDev "VIETNAM IT MARKET REPORT: Developers Recruitment State 2021"

上位の高給取り技術スタックは、AI/MLトレンドに関連するハイテク (Kubernetes、TensorFlows、Python) とクラウドコンピューティング (AWS、GCP、Azure) の2つに分けられます。これに続くのが、Web、システム、モバイル開発に関連する基盤技術で、依然として上位にランクインしています。

プログラミング言語別の開発者給与



モバイルファーストの波が押し寄せた2010年初頭と比較すると、モバイルの旧来型スキルは大幅に減少していますが、モバイル開発の新しいプラットフォームは、他の一般的な技術スタックよりも高い給与を得ています。

お問い合わせはこちら

# ベトナムのITインフラ

## 5Gについて

ベトナムで実施された5Gのデータ通信速度は、4Gの**40**倍、既存の5Gの**2**倍の**4.7Gb/s**に達しました。アジアで最速の5G通信ネットワークの1つとなっています。

※Viettel、Ericsson、Qualcommの3グループがベトテル・イノベーション・ラボで実施したテスト結果です。

4.7Gb/sという記録的なデータ伝送速度を達成するために、Viettel、Ericsson、Qualcomm Technologiesの研究チームは、先進の**E-UTRA New Radio Dual Connectivity (EN-DC)** 技術を使用しました。

**800Mhz超短波 (mmWave) 帯域**で世界最速。速度を上げ、5Gカバレッジを拡張するのに役立ちます。



<https://ictnews.vietnamnet.vn/vien-thong/thu-nghiem-5g-tai-viet-nam-dat-toc-do-nhanh-ky-luc-392539.html>

# ベトナムのITインフラ

## スマートシティについて

スマートシティ開発は、第4次産業革命に積極的に参加するための多くのガイドラインや政策に関する決議第52号に含まれる重要な内容の一つです。

ベトナムは、北部、南部、中部の主要経済地域に多くのスマート都市チェーンを形成し、地域および世界のスマートシティネットワークに段階的に接続することを目指しています。

また、スマートシティの開発は、政府からも大きな注目を集めています。

首相は、2030年までのビジョンを掲げおり、その中で、2018年から2025年までの

**「ベトナムにおける持続可能なスマートシティ開発に関するプロジェクト」**を承認しました。

現在までに、全国では63省・都市のうち**41**省がスマートシティに関するプロジェクトを実施しています。

その中には、**州全体に公布されたプロジェクト**と、**州直下の都市部に公布されたプロジェクト**があります。

# ベトナムのITインフラ

AI研究開発の国家戦略

科学技術省によると、政府は2021年に  
「**2030年までの人工知能(AI)の研究・開発・応用に関する国家戦略**」  
を発表しました。

この技術を応用・発展させることによってベトナムのAI開発の推進力を生み出し、  
社会経済の発展に貢献し、ベトナムを地域および世界のAIにおける**ホットスポット**に  
徐々に変えていくことが期待されています。

この戦略案は、AIの研究、開発、応用を促進し、**AIを第4次産業革命における  
ベトナムの重要な技術の分野に**することを目的としています。

<https://dangcongsan.vn/khoa-hoc/dua-viet-nam-tro-thanh-diem-sang-ve-phat-trien-tri-tue-nhan-tao-584686.html>

# ベトナムのITインフラ

他の東南アジアに比べてITインフラはどうか

Jakarta Globeのウェブサイトに、最近の成果として、  
「**ベトナムは東南アジアの次のデジタル経済大国になるための多くの資質を備えてる**」  
という記事が掲載されました。

ベトナムは東南アジアの「**新星**」として、劇的な経済改革を遂げ、世界で最も急速に成長している国のひとつになりました。

良好な経済環境は、ベトナムがデジタル経済の発展を促進し、強力に拡大するスタートアップエコシステムを構築することにも役立っています。

ベトナムのデジタルエコノミーは、以下の理由から大きな可能性を見せています。  
ベトナム政府はデジタルトランスフォーメーションプロセスに非常に関心があり、協力的であるため、その促進に努めています。デジタル経済の重要性を認識し、政府はこの分野の成長を促進するために多くのイニシアチブを開始しました。2020年、首相は「決定第749/QD-TTg号」を発行し、  
「**2025年までの国家デジタル変革プログラム、2030年へのオリエンテーション**」を承認しました。  
この決定には、**インターネットインフラの改善、5Gサービスの改善、政府のデジタル化、社会経済分野への技術適用**などの具体的な目標が掲げられています。

# ベトナムのITインフラ

他の東南アジアに比べてITインフラはどうか

さらに、ベトナムはデジタル市民化の傾向が強い国です。

データによると、ベトナムのスマートフォン普及台数は**6310**万台で、世界のスマートフォン普及台数上位**10**カ国に入っています。しかし、**デジタル普及率は73%**と、まだ一部の国には遅れをとっています。

人口の大半は若く、労働年齢であるため、デジタルに精通したベトナムの消費者は、ソーシャルネットワーク、電子商取引、非現金支払いなどのオンラインサービスにも簡単にアクセスできます。現金の使用も可能です。

したがって、ベトナムは近い将来、**他の国々に追いつき、デジタル経済の発展と方向性を形成**することが期待されています。

さらに、デジタル経済とスタートアップのエコシステムチャンスをつかみ、ベトナムは急速に発展しており、徐々に**東南アジアの次のスタートアップのハブ**となるような位置づけになってきています。

ベトナムには、多くのハイテク人材とイノベーションが存在しており、2021年の世界知的所有権機関 (WIPO) の報告書では、主要イノベーション指数で132カ国・経済圏のうち44位で、**インドネシア、タイ、フィリピン**といった国々よりも**上位**になりました。

# 日本とベトナムの友好関係

直近3年の政府間交流

- 新型コロナの流行期にも、良好な日越関係を維持。
- 2020年10月には日本の菅義偉元首相がベトナムを訪問。
- 日本は現在、ベトナムの主要な経済パートナーであり、ODAで1位、投資で2位、観光で3位、貿易で4位。
- 日本企業が海外での投資機会を探す際にも、ベトナムは引き続きトップの投資先となっています。
- 安全保障と防衛の面では、日本は地雷除去の支援、枯葉剤被害者の支援、救助訓練への協力、国連平和維持軍への参加などを通じて、ベトナムを支援しています。
- 両国は、労働、農業、科学技術、教育訓練、気候変動への対応などの分野で交流・協力関係にあります。
- 日本とベトナムは、文化的価値観について多くの類似点があります。  
人と人との交流は飛躍的に発展し、友好の架け橋として、両国民の相互理解、信頼、誠実な気持ちを深め、二国間関係発展のための重要な基礎を築いています。
- 日本は、400万回分以上のワクチンや多くの医療機器・物資を寄付し、疾病予防を支援しています。  
ベトナム側としては、日本国民や在ベトナム企業が生産・事業活動を維持・発展させ、生産チェーンや供給を確保するための支援や好条件の整備に大きな関心を寄せています。
- 近年、日本は多くのベトナム人留学生や労働者を受け入れ、45万人近い在日ベトナム人コミュニティを形成しており、ベトナムにとって質の高い人材の供給源であるとともに、両国の経済協力の源泉にもなっています。



# ベトナムから見た日本の印象

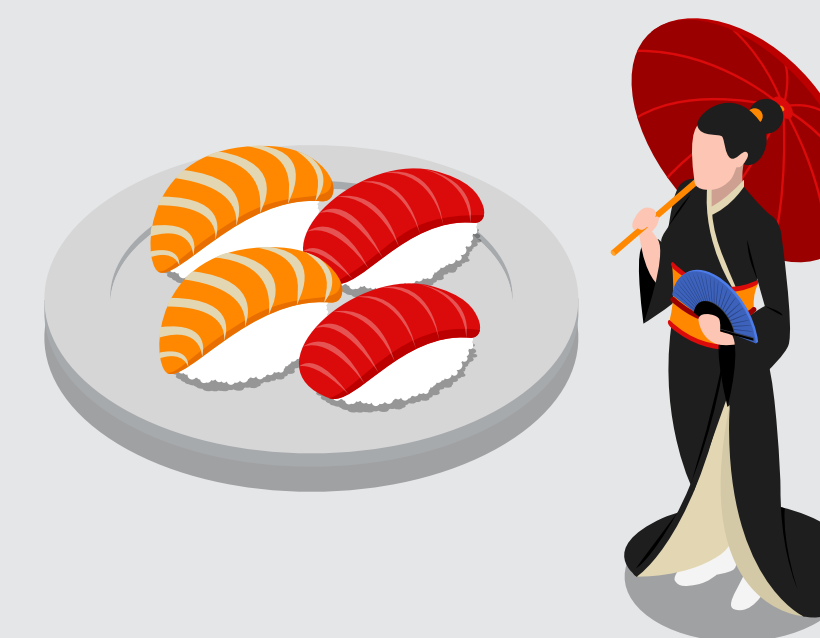
留学生の数やベトナムで有名な日本のカルチャー・プロダクト

技術や料理のカテゴリーでは、日本文化は韓国やアメリカ、その他の国の文化よりも注目され、興味を持たれています。

日本食については、ベトナム人の**98%**が「**寿司**」を知っており、「寿司」に次いで「**うどん**」「**ラーメン**」がランクインしています。

日本の漫画はベトナムで非常に人気があります。  
「**名探偵コナン**」と「**ドラえもん**」はベトナムで最も読まれている2つのシリーズです。

ベトナム人から見ると、**日本人は勤勉で頭がいい**と言われています。



<https://qandme.net/vi/baibaocao/dat-nuoc-Nhat-Ban-qua-mat-nguoi-Viet.html>

# 開発環境や人員、価格などもお気軽にお問い合わせください

日本語で当社メンバーが丁寧に対応いたします。



## お問い合わせフォーム



## サービス資料請求



## オフショア開発入門書

**THANK YOU FOR READING!**

